

## 運動器検診開始前後の側弯症診療の変化

—平成 27 年度と平成 28、平成 29 年度との比較—

栃内第二病院脊椎・側弯センター 山崎 健



岩手県は 1983 年より側弯症検診にモアレを導入し、小学 5 年、中学 1 年を中心に県内の約 40%の生徒の側弯症検診（年間約 11,000 人程度）を従来の学校(内科)健診による側弯症検診と併用して行ってきました。運動器検診開始後（H28.4～）も、モアレ検診は継続されています。H27 から H29 の各々の発見・受診動機、すなわち学校健診（H27）、運動器検診（H28,H29）、モアレ検診（H27-から H29）、その他（家族、本人、内科、小児科 X 線写真等）による検出率、受診率、側弯症の陽性率および運動器検診開始前後の経過観察、装具療法、手術療法患者の変化について調査した結果を述べます。

H27 から H29 年度に当センター外来を受診した 6 歳から 18 歳の 454 名を対象とし、H27、H28、H29 の受診者数は各々 165 名、157 名、132 名でありました。立位単純 X 線 2 方向を撮影して、Cobb 角 10 度以上を側弯症陽性例としました。

運動器検診開始後の年度別受診者数は H28 に横ばいで、H29 は減少していました。従来の学校健診による受診率では H27 は 28.5%、H28 の運動器検診初年度は 33.7%、H29 は 36.3%と増加傾向、モアレ検診による受診率は各々 55.1%、51.6%、50.7%とやや減少、その他の発見動機による受診率は各々 16.4%、14.6%、12.9%と減少していました。

陽性率は H27（学校健診）、H28、H29 の運動器検診では、各々 65.9%、66.6%、72.9%、モアレ検診では各々 81.8%、70.7%、80.6%、その他では各々、96.2%、69.6%、64.7%でありました。治療別では学校検診/運動器検診の経過観察は各々、61.3%、52.8%、54.3%、装具療法は 38.7%、41.7%、40.0%、手術療法は各々 0%、5.6%(2 例)、5.7%(2 例)でありました。

運動器検診による外来受診率は、開始後に増加し、Cobb10 度以上の陽性率も増加していました。治療別では経過観察が減少し、装具療法はやや増加していました。また手術患者が H28、H29 で各々 2 例検出されました。以上より運動器検診は現時点で側弯症の早期発見、早期治療に寄与していると考えられます。

日頃、当センターに多くの患者さんをご紹介いただいている臨床整形外科医会の会員各位に、謝意を表しますとともに、今後も、遠慮なくご紹介ください。すべて予約制で月、火、金曜日の午後に側弯症外来を行っております。（予約電話：019-684-1111 側弯症外来）